



伏せ焼きによる炭づくり



森林体験で子どもたちやファミリーに人工林の間伐を指導



植林作業

伊賀森林ボランティアサークルは、大阪府立伊賀青少年野外活動センターと連携し、自然環境保全のための活動を行っている森林ボランティア団体。年8回、人工林の間伐や広葉樹の植林、下草刈りなどの森林保全活動のほか、炭焼きやクラフトづくり、シイタケの菌打ちなどの森林体験を通して自然と親しむ活動を行っています。

自然豊かな環境を背景とした活動

伊賀市は、三重県北西部に位置し、滋賀県との県境にあります。古くから「忍者発祥の地」として知られており、俳人で有名な松尾芭蕉も、この地で生まれたと言われています。

伊賀森林ボランティアサークルの活動地である大阪府立伊賀青少年野外活動センターは、その伊賀市にひととき高くそびえる、標高765mの霊山れいざん南側の標高500mの場所に面積112万㎡の敷地をもった社会教育施設。近畿地方中部、三重県、奈良県にまたがる山間部の室生赤目青山

国定公園内にあります。

北東に鈴鹿山脈、南に青山高原をひかえたセンター内は、南北に東海自然歩道が通り、アセビ・イヌツゲの原生林をはじめ約500種類以上の植物やシカ・ウサギなど多くの生き物が生息するなど、豊かな自然に恵まれ、大阪市内の小・中学校の一泊移住や体験学習などに利用されています。こうした環境の中で、伊賀森林ボランティアサークルは、森林整備や市民の自然体験のための活動に取り組んでいます。

森を訪れる人のための整備活動

伊賀森林ボランティアサークルの発足は平成10年、一般財団法人「大阪府青少年活動協会」主催の「今、森が危ない！」と題した森林ボランティア体験講座募集がきっかけ。当初

森林ボランティア



ハイキングコースの傷んだ階段の補修作業

は年1回の企画事業でしたが、講座参加者の強い要望によって平成12年からは行政を離れて自主活動となり、伊賀森林ボランティアサークルとしてスタートしました。

当初、年4回行われていた活動は、年を経るに従って回数を増し、現在の定例活動は8月の繁忙期と道路が凍結する12月～2月を除いた年8回、毎月二泊三日または二泊三日で行われています。主な活動内容は、春はドングリなどから育てた広葉樹の植林や人工林の間伐、夏は下草刈りなどの育林作業、秋はシイタケのほだ木づくりや炭焼きなど。子どもたちやファミリーを対象とした森林体験指導にも力を注いでいます。最近では老朽化

伊賀森林ボランティアサークルの活動は堅苦しい内容ではなく、参加者が気軽に自然と親しむことのできる実践型エコツアーとなっています。実践型エコツアーとは、さまざまなエコツアーに参加してきた人たちが、自分自身の経験を活かして環境ボランティアやインタープリター（自然の案内人）などに挑戦し、環境保全の重要性を伝えていくというものです。20代から70代までの幅広い年齢層の会員が、そ

気軽に自然と親しめる「実践型エコツアー」

し傷んだハイキングコースの階段の補修やキャンプ場の土手の修理、間伐材を使った薪やテーブルづくりなど、施設内の環境整備にも積極的に取り組んでいます。

また、森の中に設置した自作の石窯でピザを焼いたり、バーベキューで盛り上がったりと、季節ごとに森や自然を楽しみするための企画もあり、年間を通じて普段の生活では味わえない体験ができるよう工夫されています。



株立ちしたの幹のうち良いものを残す「もやわけ」作業

それぞれの経験を持ち寄った活動を展開し、平成20年には環境保全に貢献する実践的なエコツアーとして、財団法人中部産業・地域活性化センター（現・公益財団法人中部圏社会経済研究所）の中部エコツアー50選にも選ばれています。

前回の活動で間伐した木材を使って、次回はテーブルを作るといった継続的な取り組みで作業の成果を実感できるように配慮し、幅広い年齢層の会員が力を合わせ、和気あいあいと活動を行っています。

また、毎回の活動ごとに活動誌「森の民」を発行し、ホー



間伐材による薪づくり

ムページでも詳細を報告するなど、広報活動にも力を入れ、森へ行ったことがない人たちにも参加しやすい体制づくりを行っています。



老朽化したキャンプ場土手の修理作業

伊賀森林ボランティアサークル

- 会員数 34人
- 活動フィールド 大阪市立伊賀青少年野外活動センター（三重県伊賀市愛田）
標高500m、面積112万㎡（約34万坪）
- 定例活動 3～7月、9月～11月の各月
- ホームページ <http://www.sun-inet.or.jp/~a300223/>